

不易流行

株式会社メディパルホールディングス 取締役
株式会社メディセオ 代表取締役社長
長福 恭弘 (Chofuku Yasuhiro)



日本の人口は、2010年の約1億2,800万人をピークに減少傾向にあり2050年には1億人を割ると予測されています。また、総人口が減少する反面、高齢者人口は2025年には3,657万人に達すると見込まれています。その結果、高齢者の比率は上昇を続け、2013年には国民の4人に1人の割合であったものが、2060年には国民の約2.5人に1人の割合になり、先進国の中でも最も早いスピードで高齢社会が到来すると推計されています。将来の日本経済成長と国家財政に大きく影響していくことは間違いないものと思います。

私たちメディパルグループは、医療と健康の一翼を担う流通企業として、いかに国民のお役に立つかを日々考え取り組んでいます。とりわけ医療用医薬品・医療機器・診療材料・診断用試薬は薬価公定価格のもと流通しておりますので、大きな枠組みで考えれば、国民にとって医療にかかる流通コストであります。

一方で医療用医薬品は、患者様が継続して服薬される生命関連品でありますから、いかなる時にも安定した供給を行う必要があります。いかに低コストで安定的に供給できるかが医療用医薬品卸の永遠のテーマであります。

この事を考えるきっかけとなりましたのは、1995年1月17日未明に起きました阪神・淡路大震災です。メディパルホールディングスの前身である三星堂は大変大きな被害に遭いました。本社をはじめ支店建屋の損壊、医薬品の落下破損、従業員の安否確認困難など、業務を再開することが困難な状況になりました。

また、お得意様に対しても交通が遮断され、医薬品をお届けすることが極めて難しい状況になった体験をしました。従来の医薬品流通は、郊外にある大規模物流センターに医薬品を置き各地にある支店を経由して医療機

関に届ける方式を採っていました。震災の時、私は大阪で病院の責任者をしておりましたが、神戸だけではなく患者さんが移動してこられた大阪においても、全従業員が休日返上で物流センターに直接商品をとりにいたり、夜中に支店に入る商品を検品したり、大変な思いで医薬品供給に全力を尽くしたことを思い出します。

当時の故山田隆史社長は、このとき災害に強く、どのような時にも止まらない流通を実現することを考えるようになりました。

その後、2004年10月23日に新潟中越地震が発生し、停電や山間部の道路が寸断され配送が困難な状況になった時には、自家発電機の設置やバイクによる配送を行い、確実に医薬品をお届けすることが出来ました。

翌年から物流実証試験にとりかかり、従来の方式を一新して、市街地の真中に大規模物流センターをつくり直接医療機関へ届ける方式に変更。2009年9月、神奈川県横浜市戸塚区に最新の物流拠点として神奈川ALC（エリア・ロジスティクス・センター）を建設致しました。

ALCは、当社として初めて建物免震構造を採用、屋上には96時間無補給で稼動する自家発電設備を備え、医薬品のみならず非常食、飲料水、防寒シートなどの物資を備えました。翌2010年6月に南大阪ALC（大阪府八尾市）を建設致しました。

これらのサステナブル機能は使用する機会が無いに越した事はありませんが、2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生しました。マグニチュード9.0という過去に経験した事のない巨大地震はまだ皆様の記憶に新しい事と思います。

また、東日本大震災は地震による被害だけではなく、大津波で沿岸家屋の流失や原子力発電所が崩壊したことで影響は甚大なものでありました。当社も岩手県の釜石支店が津波により流失し、一時閉鎖を余儀なくされま

した。

稼働していた従来型の物流センターは耐震設備ではありましたが、多くの商品が落下しました。地震で棚から商品が落ちると、コンピュータ上での在庫と実際の在庫が合わなくなり、加えて計画停電も重なって業務再開まで時間を要しました。

そのような中で神奈川ALCは商品の落下や物流設備の故障もなく、すぐに業務を再開、直ちに社員の安否確認を取るとともに、救援物資・緊急医薬品リストにある物資を被災地へ発送し、さらに他のセンターの補完をすることが出来ました。幸い東北自動車道の被害が少なかったこともあり、2日目には物資を被災地に届けることが出来ました。また、新潟中越地震の経験も踏まえて全国に備えたバイクを被災地に移動し、瓦礫で車両通行できない場所へ運び続けることが出来ました。

私は企業の存在価値は「社会にとってなくてはならないか」「人々に役立っているか」が問われていると思います。いかなる時にも止まらない流通を目指し社会的役割を果たしていくためには、それらに対応するための投資が不可欠です。ただし防災に特化した施設の建設やシステムの投資には費用がかかります。

これは社会のお役に立つための必要な投資であると覚悟を決めています。そしてどんな時にも薬を届けるという使命を全社員が共有しています。

現在、札幌（北広島市）・東北（花巻市）・南東京（川崎市）・神奈川（横浜市戸塚区）・名古屋（清須市）・南大阪（八尾市）の6箇所でALCが稼働しております。今後、首都圏、近畿圏、中国、九州にも展開していく予定です。全国の医療機関・調剤薬局へくまなくお届けするためには、ALCから遠距離のエリアでは時間がかかりご要望にお応えすることは出来ません。そこで各地の支店をALCと同じ機能をご提供できるようにFLC（フロント・ロジスティクス・センター）に順次リニューアルを進めています。

一方、ALC（エリア・ロジスティクス・センター）、FLC（フロント・ロジスティクス・センター）は、災害に強いだけでなく、医薬品をお得意様が必要なときに必要な量だけ間違いなく正確にお届けできる仕組みを開発致しました。

一見、簡単な話に聞こえますが、医薬品は患者様の動向によって大きく変わります。例えばインフルエンザなどの感染症の流行、花粉症や喘息アレルギーなどの季節変動のある医薬品はエリアごとに需要を予測することが難しい商品でもあります。それらの商品を品切れさせることなく正確にお届けしなければなりません。間違いなく商品をお届けするという一番大切な使命に対して、当社では製造メーカーの管理手法では常識とされる6σ（シックスシグマ）、すなわち100万回の作業を実施して

も不良品・作業ミスの発生率を3.4回以下に抑えるための仕組みを開発しています。

先日、厚生労働省はジェネリック医薬品の普及率を2018年3月末までに数量ベースで60%以上に引き上げるという新たな目標設定を発表しました。今後、品目数、数量ともに増加していくものと思います。

取扱う種類と量が増えれば過去の経験則や個人の能力だけでは、管理が難しくなりミスにつながるようになります。新しい仕組みは、間違いなく出庫するだけではなく、誰でも簡単に在庫できるようになっています。但し、これらの機能があっても動かすのは人であると思います。

私たちメディパルグループの経営理念は、「流通価値の創造を通じて人々の健康と社会の発展に貢献します。」です。私たちが考える流通価値とは医療に無くてはならない医薬品・診療材料・試薬を有事・平時に関わらず、必要な商品を必要な時に必要な量だけ、安心・安全・便利にお届けすることであると考えています。

私はこの想いを全社員で共有し、一人ひとりが「腹落ち」出来るように、我々の企業はどのような会社なのかということを全従業員に繰り返し伝えるように心がけています。これが有事に備える上で一番大事なことであると思います。「いかなる時にも間違いなくお届けする」この医療機関との信頼が患者様、国民の皆様のご期待に繋がるものと思います。

表題の「不易流行」とは、どんなに世の中の状況が変わっても絶対に変わらないもの、変えてはならないものと変わるもの、世の中の変化に合わせて柔軟に変えていかなければならないものを意味します。

個人に例えれば、不易とは「交通ルールを守る」「年上の人を敬う」「決して嘘をつかない」などとなりますが、私たち医薬品卸で言えば「何としてでもお薬をお届けして社会に役立つ」というものではないかと考えています。それに対して流行とは、医薬品流通のより良い方法を考え、メーカーから患者様までを見据えた全体最適な流通を目指すことであります。

近年、医療機関や各地の自治体と災害時に搬送連携する協定を結び、三者が一体となって災害に対応するための訓練を重ねております。こうした一つひとつの取り組みが社会に貢献すること、社会に役立つことであると考えております。これからも弛まぬ進化を続けていきたいと思っております。

発刊！『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2014』

毎年大好評の『JAPIC医療用医薬品集 普及新版2014』を発刊しました。

本書はコンパクトなA5判で2014年1月までの添付文書情報を収載しておりますので、毎年8月発刊の医療用医薬品集のハンディ版あるいは追補版としてもご活用頂けます。

《本書の特長》

- ・「JAPIC医療用医薬品集」収載内容から臨床で利用する頻度の高い〔組成、効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意（相互作用、副作用、妊産授乳婦投与、高齢者投与、小児投与等）、半減期〕を抽出、要点に絞って編集し、一回り小さいA5判のハンディサイズにまとめました。
- ・2014年1月時点までの約2,100成分、約20,000製品の最新医療用医薬品情報を収録しております。
- ・医療用医薬品集に比べページ数は約半分となり、価格もお求めやすくなっております。

価格：4,800円（+税）。A5判 約1,700ページ（販売：丸善出版株式会社）



薬系大学新1年生向けに 日本の医薬品 構造式集 2014を無償提供！

JAPIC会員サービス及び教育支援の一助として、本年度も3月に「日本の医薬品 構造式集 2014」を無償提供しました。毎年、JAPIC会員の薬系大学に入学予定の1年生向けに「日本の医薬品 構造式集」のご利用の希望数を伺っておりますが、本年度は薬学系大学49校から11,000冊を超える数の回答が寄せられ、3月末に送付いたしました。

医薬品についての知識や技能の習得を補い、いくらかでも薬学と薬剤師教育の発展と高度化にお役に立ちたいとの思いから、薬系大学（JAPIC会員のみ）への「日本の医薬品 構造式集」の無償提供を2005年より毎年実施しており、提供先大学からは、教育現場で広く有効に利用されているとのご報告をいただいております。

このような事業を継続できますのもJAPIC会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。



日本の医薬品構造式集

- ・「JAPIC医療用医薬品集2014」収載成分から一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約1,400成分の構造式を収載しております。薬剤師はじめ化学、薬学領域の学生・研究者にとって不可欠な内容です。
- ・各成分には構造式のほか、一般名・化学名・薬効分類・効能効果・CAS Registry number・分子量・分子式を記載しております。
- ・お求めやすい価格に改定しました。

価格：1,800円（+税）。B5判 約200ページ（販売：丸善出版株式会社）

平成26年度JAPICユーザ会開催案内

平成26年度のJAPICユーザ会を下記の日程で開催します。

詳細は次号及びホームページでご案内します。

☆平成26年6月17日(火) 13:00~17:00 東京 日本薬学会長井記念ホール

☆平成26年6月19日(木) 13:00~17:00 大阪 大阪ガーデンパレス

平成26年度 学会等 出展予定

大会名	期間	開催地
ITヘルスケア学会 第8回年次学術大会	5月24日~25日	東京医療保健大学 五反田キャンパス
医療薬学フォーラム2014 第22回クリニカルファーマシーシンポジウム	6月28日~29日	ビッグサイトTFTホール
第17回日本医薬品情報学会	7月12日~13日	かごしま県民交流センター
国際モダンホスピタルショウ2014	7月16日~18日	東京ビッグサイト東展示棟
第44回日本病院薬剤師会 関東ブロック学術大会	8月30日~31日	大宮ソニックシティ
第24回日本医療薬学会年会	9月27日~28日	名古屋国際会議場
第20回日本薬剤疫学学会学術総会	10月11日~12日	愛媛県松山市コミュニティセンター
第47回日本薬剤師会学術大会	10月12日~13日	山形市民会館
第16回図書館総合展	11月5日~7日	パシフィコ横浜
第34回医療情報学連合大会	11月6日~8日	幕張メッセ国際会議場
第76回九州山口薬学大会	11月23日~24日	長崎ブリックホール
第135年会日本薬学会	3月25日~28日	神戸学院大学、兵庫医療大学 他

*開催内容につきましては変更される場合があります。

発行しました。 JAPICガイド2014

4月に2014年版を発行しました。本書はJAPICの事業活動を一覧でき、内容把握が容易になることを目的に毎年発行しております。JAPICの会員制度をはじめ、医薬品・医療機器の安全性に関する情報提供、電子データ、医薬品情報に関するデータベース、医薬品情報に関する出版活動等についてそれぞれの概要、特長、利用方法などを掲載しております。また、附属図書館主要蔵書リストも掲載しております。JAPICのサービスや全体像を把握する際の参考資料としてご利用ください。ご希望の方には無料でお送りしますのでお申し込みください。

お問合せ先：業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276)

❖ JAPICサービスの紹介 ❖

JAPICとトムソン・ロイターとの提携による 「海外文献学会カスタマイズ情報」の提供について

トムソン・ロイター社との提携により「Custom Information Services (CIS)」による海外文献情報を提供いたします。
JAPIC-Qサービスで提供してきた国内医学薬学関連文献情報と併せてご利用いただく事により、国内・海外のファーマコビジランスのご支援が可能となります。
(CISとは：トムソン・ロイターが購読している学術雑誌を基に、お客様各々の御希望に応じて、必要な情報のみ抽出して配信するサービスです)

〈対象文献〉

学術論文雑誌：トムソン・ロイター社のデータベース基準を満たした人文科学・自然科学分野の学術論文雑誌約17,000誌
学会抄録・プロシーディング：約10,000件/年

<http://ip-science.thomsonreuters.com/mjl/>

(上記ウェブサイトから検索可能)

※JAPIC-Qサービス対象雑誌は除いています。

※JAPIC-Q海外情報サービス対象の13誌はCISでも対象誌とします。

※英語以外の言語で書かれた論文については、著者抄録が英文の場合のみ対象となります。

〈サービス内容〉

- ・薬剤名(一般名)にてモニタリング
- ・調査対象薬剤名に関して、条件に合致した論文を抽出し、書誌的事項・索引・サマリーなどを付与したデータ
- ・週1回提供

〈文献選択条件〉(A and B and C)

A: 英文で書かれている、あるいは著者抄録が英文で書かれている

B1:

本薬剤が関与した、著者らのオリジナルな臨床ないしは非臨床研究結果についての報告であり、副作用、安全性、毒性に関わる情報を含む

B2:

化学分析に関する研究で、本薬剤の溶出・溶解に関わるオリジナルな研究データが含まれる(副作用、安全性、毒性に関わる情報を含まなくてもかまわない)

B3:

臨床、非臨床に関わらず本薬剤が主題となっているレビュー記事(本薬剤に関する研究結果、あるいはデータが必ず含まれていること)

B4(※):

本薬剤が関与した、著者らのオリジナルな報告であり、以下(別紙参照)のケースが報告された物(副作用、安全性、毒性に関わる情報を含まなくてもかまわない)

C: 記事タイプは以下のものに限る:

臨床研究、In vivo研究、In vitro研究、薬理学、ないしは前臨床、動物研究(ADME、毒性試験、その他)、症例報告あるいは症例集、化学分析研究、動物研究、疫学研究、医療経済学的研究、レビュー記事(但し当該薬剤が主題となっていること)、メタ解析研究、学会報告書、学会抄録集(オリジナルな情報が含まれるものに限る)、調査報告書(投与薬剤調査等)

※B4条件リスト

- ・ Overdose or Poisoning
- ・ Accidental intake
- ・ Medication error
- ・ Occupational exposure
- ・ Pregnant
- ・ Breastfeeding
- ・ Children
- ・ Elderly
- ・ Organ impaired
- ・ Drug abuse or Dependence
- ・ Abnormalities in lab test results
- ・ Drug-drug interactions
- ・ Drug incompatibility or Instability
- ・ Lack of efficacy or Treatment failure
- ・ Off-label use
- ・ Falsified medicinal product
- ・ Quality defect

〈提供データ内容〉

1. 論文の書誌事項

- ・ 著者名
- ・ 著者所属
- ・ 記事タイトル(英文)
- ・ 掲載雑誌名
- ・ 雑誌巻号頁 出版年月 ISSN
- ・ 学会情報(開催学会名、開催地、開催期間)
- ・ 文献タイプ(Clinical study, case report, meta-analysis, non-clinical study, review, epidemiology study, meeting abstracts/reports, miscellaneous)

2. 論文内容から付与するキーワード

- ・薬剤名 (化合物名)
- ・製品名 (ブランド名、明記されている場合のみ)
- ・投与経路 (経皮、歯科、外用局所、吸入、注射、眼科、経口、その他)
- ・適応症 (MeSHタームを使用)
- ・副作用 (該当する場合のみ: MedDRAコード併記、PT及びLLT)
- ・重篤な副作用 (該当する場合のみ: 重篤あるいは致死性的、副作用ないしは感染パターンの変化、不奏効)
- ・安全性関連情報 (該当する場合のみ左記選択条件3. のキーワードを付与)
- ・研究対象者 (ヒト、動物、両方、いずれでもなし)
- ・併用薬あるいは治療 (該当する場合のみ)

3. 抄録、論文サマリー

- ・著者抄録 (提供可能な分のみ、英文)
- ・論文サマリー (2~3行の簡単なまとめ、英文、和文)

〈文献複写の発注代行 (オプションサービス)〉

ご希望のお客様には、下記条件に合致した論文につき、自動的に論文複写の発注をトムソン・ロイター社にて代行いたします。

「ヒトあるいは動物・ヒト両方が研究対象となっており、有害事象報告がある論文」

この条件に合致した論文は自動的にトムソン・ロイター社の使用する論文複写取得業者に発注され、お客様からお預かりしていたメールアドレスに、論文ファイル取得用のURLを案内するメールが送られます。

トムソン・ロイター社で手配するのは、お客様が上記URLを用いて論文にアクセスし、1部プリントアウトして保管する権利です。

〈提供方法〉

提供方法: テキストデータを電子メールに添付してお送りします。

提供頻度: 原則として、週1回 (水曜日および金曜日)

- 1) 水曜日
テキストデータ (和文サマリー以外) を提供します。
- 2) 金曜日 (論文サマリー: 和訳)
水曜日にお届け済みのデータに和文サマリーを追加し、提供します。

〈提供料金〉

区分	登録・提供料金 (税抜)
基本料金	年間 500,000円
登録料金	1成分につき 20,000円
提供料金	該当情報1件につき 6,000円/件

注1) 平成26年度は、上記キャンペーン価格でご提供致します。

注2) 登録料金は、登録の際1回のみお支払いいただきます。

注3) 本サービスは、会員でJAPIC-Qユーザー様向けのサービスとさせていただきます。

〈トライアル提供〉

サービス導入をご検討いただけますよう、トライアル提供 (一部有償) を実施しています。

1. トライアルサービス内容

下記よりお選びいただきました内容にて、1ヶ月間 (全4回) 電子メールにてトライアル提供いたします。

- 1) 件数把握 (該当論文の件数をお知らせします。)
 - 2) フルトライアル (ご希望のモニタリング対象薬剤 (3成分まで) について本サービス提供内容と同等の納品物をお送りします。)
- 水曜日
テキストデータ (和文サマリー以外) を提供します。
 - 金曜日 (論文サマリー: 和訳)
水曜日にお届け済みのデータに和文サマリーを追加し、提供します。
- 3) 上記1) 2) の両方

2. トライアル料金

- 1) 件数把握: 無償
- 2) フルトライアル: 該当情報1件につき提供料金6,000円/件 (税抜)

お問合せ先: 医薬文献情報 (国内) 担当

TEL: 03-5466-1821

FAX: 03-5466-1836

最近の話題

富山県医薬品産業の状況

一般社団法人 富山県薬業連合会 専務理事
高田 吉弘 (Takada Yoshihiro)



1 富山県における医薬品産業の位置づけ

富山県の医薬品産業は、江戸中期から300年以上の歴史を有する伝統地場産業であり、全国から「富山のくすり」として親しまれてきた「配置薬」を中心に発展してきました。

そして、薬業資本により銀行や電力産業が創設されるなど、富山県発展の礎を築き、県内産業の近代化に大きく貢献しました。

富山県の産業は、まず豊富な水資源や低廉な電力を活用した化学や紡績産業が立地し、戦後、新産業都市構想を背景にアルミなどの金属・加工、工作機械産業が集積し、近年は、自動車等の機械関連産業や電子部品等の電子材料産業が発展し、日本海側屈指の工業集積地となっています。

その中であって、医薬品産業の位置づけを平成23年の産業分類別生産額で見ると、医薬品製造業は生産額で第1位(8.7%)、従業員数は建設用等金属製品製造業に次いで第2位となっており(図1、2)、富山県を代表する産業となっており、平成26年1月1日現在、83社の医薬品製造業者と105ヶ所の製造所が集積しています。

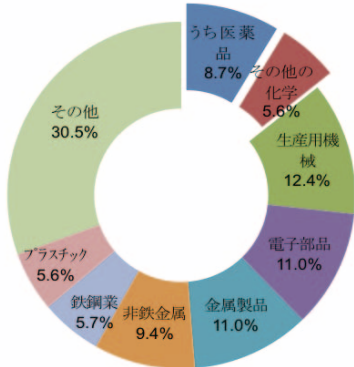


図1 産業分類別生産金額に占める医薬品の割合

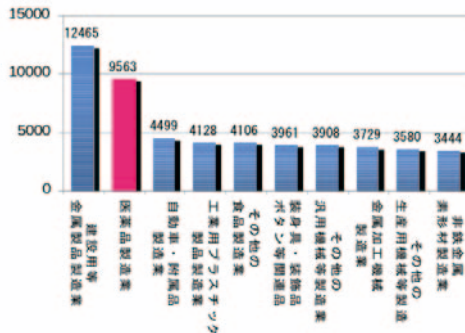


図2 業種別 (産業分類別) 従業員数

2 医薬品産業を取り巻く環境の変化

県内医薬品製造業者は、配置薬の製造からスタートした企業が多く、かつては、全国の各家庭に配置薬を届けた配置販売業者と連携した、いわゆる製販一体による生産活動を展開し、業績の拡大を図ってきました。

しかし、配置販売業界においては、経済活動の発展に伴う商形態の変化(配置先へ出向く出張型から、販売拠点を配置先に置く現地居住型への移行)のほか、核家族化の進展や共働き家庭の増加等による配置先家庭状況の変化、ドラッグストアの増加など、配置を取り巻く環境が大きく変化しました。それに対応するため、各医薬品製造業者においては生き残りを懸けて、従来の配置用医薬品を主体とした生産体制から、医療用医薬品や一般用(OTC)医薬品への参入や生産の拡大などが進みました。

その後、平成17年の薬事法改正に伴う医薬品製造のアウトソーシングの完全自由化を始めとして、平成18年の一般用医薬品の販売制度の見直しや薬剤師教育6年制の導入、更には、平成19年、医療保険財政の改善策の一環として策定された「後発医薬品の安心使用促進プログラム」に基づくジェネリック医薬品使用促進策の推進など、医薬品産業を取り巻く環境が大きく変化し、県内医薬品製造業者においても、こうした動きに対応して、各社の戦略や判断に基づき、様々な対応が図られてきています。

3 富山県医薬品産業の現状

富山県における医薬品生産金額は、平成17年の薬事法改正を受けて、最終製品の受託製造の増加などにより、平成18年に大幅に増加し、全国第8位から第4位に躍進しました。その後、ジェネリック医薬品の使用促進策や新薬・新製剤の開発などの要因も加わり、平成24年は対前年5.7%増と、初めて6000億円台を突破し、全国第3位となっています。(図3、4)

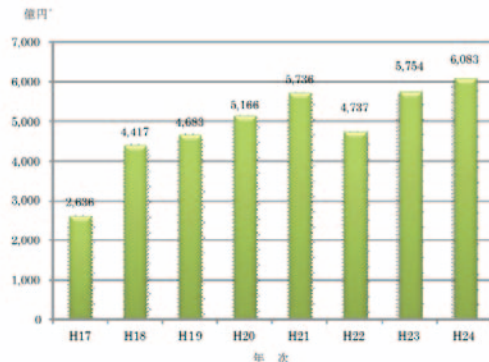


図3 富山県の医薬品生産金額の推移

最近の話題

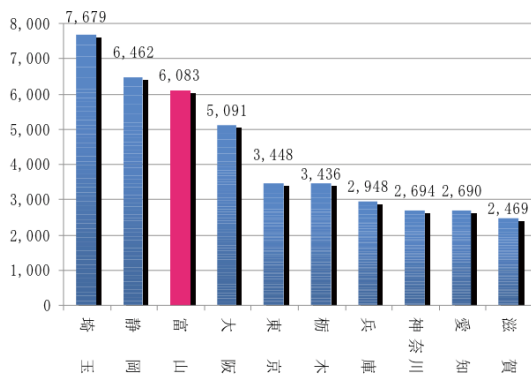


図4 都道府県別医薬品生産金額 (平成24年)

また、人口一人当たりの医薬品生産金額及び医薬品製造所数は全国第1位となっており、「くすりの富山」と評価していただける状況となっています。(図5)

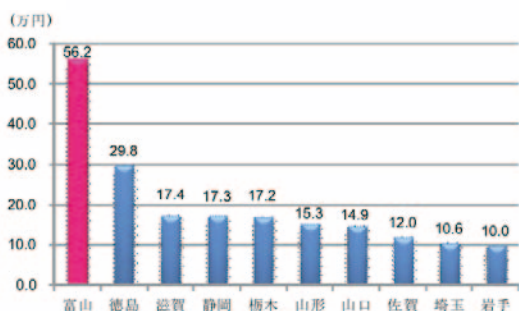


図5 人口1人当たりの医薬品生産金額 (平成24年)

また、県内製薬企業においては、積極的な設備投資が行われており、平成17から25年までの投資金額は約1,700億円となっており、平成26年以降も400億円を超える設備投資が予定されており、今後も医薬品生産金額が

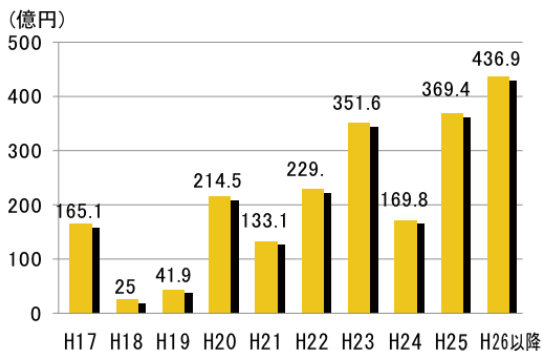


図6 設備投資の状況 (県くすり政策課調査)

伸びていくものと期待されています。(図6)

全国から「くすりの富山」と評価をされている本県製薬界の大きな特徴としては、新薬からジェネリック薬、一般用 (OTC) 薬、配置薬のほか、原薬メーカーまで、多種

多様な企業が存在していること、そして、製剤機器や容器、包装資材、パッケージ印刷などのほか、運輸・倉庫業や卸売業などの多くの医薬品産業を支える関連県内企業が集積していることが挙げられます。これらは、いずれも長い歴史を経て今日の姿になったものと考えられます。

そして、貼付剤や軟膏剤等の外用剤や点眼剤など特殊製剤に強味を持つ企業が多く、優れた製剤開発力を有するのも、富山の製薬企業の大きな特徴の一つだと思います。

4 富山県における薬業振興の取り組み

富山県行政においては、かつて薬務課と薬業振興課の二課体制が取られ、各種の薬業振興施策の展開が図られていました。その後、平成14年にはくすり政策課に統合されましたが、振興開発班の設置により、薬業振興体制は継続されており、薬務行政の中で振興施策を行う数少ない都道府県の一つとなっています。

平成21年度には、医薬品産業のさらなる活性化を図るため、富山県医薬品産業活性化懇話会が設置され、県及び業界界が取るべき施策展開の方向性について議論し、「製造技術力の強化」、「人材の確保」、「情報発進及び関連企業等との連携」、「企業立地しやすい環境づくり」、「国際化の推進」の五つの戦略が取りまとめられ、これに基づき産学官が連携を図りながら、各種施策が展開されてきました。

しかし、この懇話会の報告書が作成されて4年近く経過し、医薬品を取り巻く情勢が大きく変化していることから、平成25年7月には懇話会が再度設置され、新たな戦略的な取り組み等について、これまで3回の議論が重ねられているところです。

5 今後の目指すべき方向

医薬品を取り巻く環境は、グローバル化の進展が一層進むとともに、医薬品市場における抗体医薬品等のバイオ医薬品の売上げが増加しているほか、日本のPIC/Sへの加盟申請や一般用医薬品販売におけるインターネットを活用した販売の解禁など、新たな動きも出てきています。

現在、富山県は、医薬品の生産拠点として、高い評価を受けていますが、こうした環境の変化等に伴い、国内外における地域間及び企業間競争は今後ますます厳しくなってくるものと考えられます。

引き続き、本県医薬品産業が持続的発展を図っていくためには、各製薬企業における製造管理・品質管理技術や製剤開発力の蓄積を活かして、更なる技術力と開発力の強化に努めるとともに、「くすりの富山」が有する多様な製薬企業と医薬品関連産業の集積を活かした地域力の向上や成長が見込まれる世界の医薬品市場への展開を念頭においた国際化の推進等に取り組んでいく必要があると考えています。

こうした課題に果敢に挑戦し、国際競争力を有する「くすりの生産拠点」の確立を図り、医薬品生産金額の日本一を目指し、『世界に羽ばたく「薬都とやま」の実現』が図られるよう、さらなる飛躍に向けて、各製薬企業や関連企業とともに努力していかねばいけないと思っております。

終わりに、富山県は、地震等の自然災害の発生率が低い一え、これまで述べてきたように、県行政と業界団体である富山県薬業連合会が連携して薬業振興施策を展開しており、新たな製造施設を検討していらっしゃる医薬品企業があれば、「くすりの富山」を候補としてご検討していただくことを願っております。

薬剤師の現場

「近未来の薬局・薬剤師像」 —新たな「かかりつけ薬局」の確立へ向け—

公益社団法人 福岡県薬剤師会 会長
藤野 哲朗 (Fujino Tetsuo)



1. はじめに

福岡県の人口は約508万人で、商業都市である福岡市（政令市 人口:150万人）と工業都市である北九州市（政令市 人口98万人）を中心に、福岡・北九州・筑豊・筑後など県下4つ医療圏からなる区域で形成されている。医療機関は九州大学病院を含む4つの大学病院が筑豊を除く各医療圏にあり、医療圏ごとに大学病院を中心に約5,000の医療機関が存在している。また、福岡市とその近郊のベッタタウンでは九州一円からの人口流入もあり人口は増加しているが、その他の市町村では高齢化率も上昇しており人口の減少が続いている。

そのような中、福岡県下には約2,700軒の薬局・ドラッグストアがあり、約10,000名の薬剤師が在住している。人口1万人あたりの薬局数では、全国平均4.29軒 に対して、福岡県では5.32軒と全国4位の薬局数となっている。

福岡県薬剤師会には4,200名（平成25年度）の薬剤師が所属し調剤やその他薬事業務に従事している。また、福岡県薬剤師会は県下25の支部薬剤師会と協力して医療保険や薬事衛生、学校保健等に関する各種事業を展開するとともに、年間約3,570万枚の処方箋を応需している。

福岡県の医薬分業率はすでに69.4%に達しており、今後 急速な処方箋発行の増加は見込めず、福岡市以外の地域では高齢化に伴う人口減少による、一般用医薬品の市場規模の縮小や薬剤師不足による人件費の高騰と薬剤師業務の多様化などにより、門前・マンツーマン薬局や独立系薬局は経営的に苦しい状況が続いている。

このような中、福岡県薬剤師会では「福岡県版 薬局グランドデザイン」を作成し、近未来の県下薬局のあるべき姿を会員に示すとともに、地域医療・保健の中で薬剤師の果たすべき役割を検討することとした。

2. 薬局を取り巻く環境の変化

○インターネット販売がもたらした環境の変化

昨年実施された、一般用医薬品のインターネット販売の解禁はこれまでの薬局での医薬品販売の形態に今後大きな変化をもたらしていくものと考えられる。具体的には、都市、郊外に限らず若年層の薬局への来店機会の

喪失であり、それに伴う薬剤師職能発揮のための対面販売や相談業務の喪失である。このことは売上の喪失以上に薬剤師職能の国民への啓発チャンスを奪うとともに、国家資格を持つ専門職能としてその存在を否定されたものとなった。さらに、政府の規制改革派は一般用医薬品の販売に加え、医療用医薬品のインターネットによる販売を視野にいたれた規制改革を狙っており、医療の分野においても、このインターネットによる医薬品販売の問題は、今後 医療・薬局関係者にとって大きな課題になっていくものと考えられる。

そのような中 厚生労働省は、平成26年度薬局・薬剤師関係予算案の「薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業費」の中で、都道府県薬剤師会が認定してきた「基準薬局」を、新たに「健康づくり拠点薬局」に移行させる構想を描いている。この予算案はセルフメディケーション推進のための実施計画策定を地域の薬剤師会にとって「必須」要件とする考えであり、業務行政が現場の薬局・薬剤師に望む役割・姿そのものでもある。このモデル事業は、拠点薬局の具体像を確定させることが目的で、対象の薬局にはセルフメディケーション実施計画策定とともに、一般用医薬品の適正使用に関する相談窓口の設置や普及啓発を必須要件に課す。さらに、セルフメディケーション推進のセミナー開催では「食生活」「禁煙」「心の健康」「高齢者」「アルコール」「在宅医療」といったメニューから選択させ、同時に血圧計などの検査機器設置で健康チェックを行う体制の整備を求めている。さらに、薬局を健康づくり拠点として活用する方向性と整合性を取るように、政府の規制改革会議健康・医療ワーキンググループでは、医療用検査薬のスイッチOTC薬化推進が議論されている。日本OTC医薬品協会は、意見聴取で「排卵日検査薬（黄体形成ホルモン：LH）」「尿潜血検査薬」などをOTC薬化すべきと例示している。日本薬剤師会が処方箋受け入れのために、整備した「基準薬局」は行政の力によってその姿を大きく変えようとしている。

○高齢社会がもたらした薬剤師職能を巡る環境の変化
地域医療の中で薬局・薬剤師が果たすべき役割についても大きな環境の変化が起ころうとしている。今回の

診療報酬体系の議論では、今後数回の改定を経て超高齢社会における新たな医療体制の構築に向け、進むべき絵姿ができあがろうとしている。具体的には、団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けて、完治しにくい慢性疾患を抱えた高齢者に対応するため、リハビリ病床を増やし、急性期病床に偏っている現状の病床配置を改めコストが高い急性期病床を減らすことにより、医療費の抑制も目指す。急性期病床は看護師の配置が手厚く診療報酬が高いため、今回の改定により、報酬を受け取る際の要件が厳格化され対象患者を絞り込み、患者の自宅復帰を促すと同時に、訪問看護ステーションの大規模化などにより、結果として在宅療養が推進されていく事となる。つまり、在宅療養における薬剤師の役割を発展させていくことが、薬局の機能、薬剤師の職能向上にとって今後重要な要件となっていく。在宅における「チーム医療の推進」に薬局・薬剤師が参加できるのか、在宅での服薬に薬剤師が不可欠な存在となれるのか、「地域包括ケアシステム」の中で薬剤師がチーム医療の実践に奮闘していくことが不可欠となる。さらに、急激に進歩する医薬品や薬物療法を踏まえ、薬剤師がチーム医療の中で薬物療法に責任をもっていくためには、今後より専門性の高い薬学領域の知識を獲得していく必要がある。

○薬局経営を巡る環境の変化

福岡県では、医薬分業の初期の段階で、従来からあった薬局が積極的に一般用医薬品も取り扱いながら院外処方せんを応需している姿が見られたものの、次第に調剤専門の門前・マンツーマン薬局の数が多くなり、県下の薬局の姿が様変わりした。一般用医薬品を中心に営業してきた小規模薬局が減少してきているにもかかわらず、医薬分業の進展にあわせて、県下の薬局数は増加している。それらは、主に門前型またはマンツーマン型での調剤専門の開局が多いと考えられるが、医薬分業の歴史の長いヨーロッパや米国の薬局の状況からしても、オーバーストア化しているといわざるを得ない。

加えて、小規模な門前・マンツーマン薬局の増加は、坪数の関係から地域の医薬品の安定供給の源であるべき薬局が一般用医薬品を手放すこととなり、一般用医薬品の販売に関してはドラッグストアの拡大へとつながった。当初、調剤専門の薬局を展開する薬剤師の中には、「調剤を主体にした経営をしていることがドラッグストアとの差別化になる。そして彼らには調剤事業はできない」としていたが、近年、ドラッグストアの中には調剤事業を併設し積極的に処方せん応需を行うようになりつつあるところが増加し、既存の薬局の経営を圧迫してきている。さらに、調剤報酬で経営を維持するという世界でもまれな薬局の経営形態は高齢化社会の進展による医療費抑制政策により、薬価の大幅なダウンやジェネリック医薬品の使用促進、調剤報酬の引き下げなど、医療費抑制政策の影響をまともに受け収益を大幅に低下させている。加えて、他の医療団体などからは、公的資金と税金からなる医療保険の財源を株式配当する大手

調剤チェーンに対して厳しい批判も出ている。

福岡県において今後も医薬分業が進展することは確実だと思われる。それだけに、収入源が調剤報酬一辺倒であった薬局の経営形態を変革していくための、薬局・薬剤師の意識改革と行動が求められている。

3.福岡県薬剤師会の取り組み

（「かかりつけ薬局」の確立を目指して）

薬剤師が高度化、専門化する医薬品や薬物療法の中で、チーム医療の中心として各種の薬物療法に責任をもっていくためには、今後より専門性の高い薬学領域の知識を獲得していく必要がある。そのために、福岡県薬剤師会では腎臓病、抗癌治療、緩和医療など、3つの薬学会と話し合いを進め、認定・専門薬剤師取得のための県薬セミナーの開催を現在準備中であり、本年秋以降より、試行事業の開始を予定している。また、昨年より重要になってきている「薬剤師業務の見える化」と、前述した「セルフメディケーションの普及」を目指し、現在作成中の「福岡県版:薬局ランドデザイン」では、県民から求められる近未来の薬局・薬剤師のあるべき姿を示していく予定である。具体的には、①住民目線の親しみやすさ、②一般用医薬品を含む医薬品及び医療材料の適正な供給、③処方箋による適切な調剤、④副作用発生防止など医療安全の確保、⑤在宅医療・介護などにおける多職種連携の推進、⑥学校保健などを通じた地域への貢献等であり、それらを具体化していくための適切な「薬局規模」も同時に示す予定である。

4.今後の課題

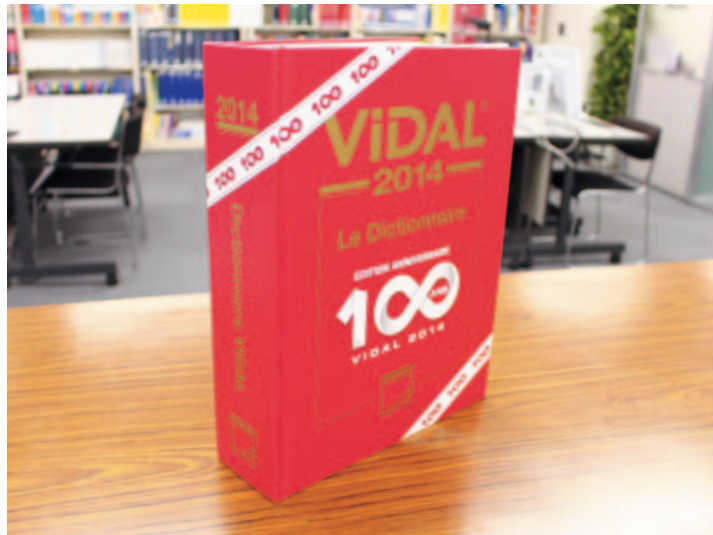
インターネット等IT社会の進展は既存の流通システムを破壊し、一般用医薬品などの新たな流通システムと消費システムを確立しつつある。また、医療の分野ではこれまでの医薬分業の推進期は終わりを告げ、医薬分業は成熟期を迎えつつある。薬局・薬剤師を取り巻く社会環境は大きく変化している。このような中、今後の課題として浮かび上がって来るものは、1.「薬局機能」の客観的評価方法の確立、2.「薬局法人」の設立へ向けた法的整備の検討、3. 血糖・血圧測定等の自己検査を含めた薬局における「セルフメディケーションの普及」、などである。

これらの項目は当然、関係諸団体と緊密な連絡・連携のもとに実施を検討するものではあるが、近い将来、薬局の都市機能の一部として、薬剤師の職能として避けて通れない課題となってくることは確実である。そのような時代を迎えた時、福岡県下の薬局・薬剤師にどのような将来像を描き示していくのか、職能団体である福岡県薬剤師会の責務は重い。変化を恐れずに受け入れ、しなやかに、そして、積極的に行動していく薬剤師会会員を数多く育てていく努力を、今後も続けていく必要がある。

おすすめの 一冊

JAPIC 所蔵の書籍のご紹介 ～海外の医薬品集編～

■ Le Dictionnaire Vidal 2014 (100周年記念エディション)



書名	ViDAL 2014 Edition 100 anniversary (90th ed.)
出版社	Vidal
出版国	フランス (フランス語)
ISBN	978-2-85091-205-4
URL	http://www.vidal.fr/

フランスの医薬品集として著名なViDALの新版が、100周年記念エディションのデザインになっています。

本版より、フランス保健製品安全庁 (AFSSAPS) の協力の元、フランスのPharmacovigilanceや医薬品の安全性情報が編集・記載されるようになりました。

全てではないものの、一部の医薬品のモノグラフには価格が記載されています。また、成分、用法用量や副作用について記載したモノグラフの他、薬効分類別製品一覧や一般名別製品一覧、製薬企業別製品一覧が付属しており、総合的なレファレンスブックです。

JAPIC 附属図書館は日本で最も多くの海外の医薬品集を収集している図書館です。
一般公開ですので、どなたでもご利用いただけます。受付カウンターで入館手続きをお済ませの上、お入りください。
(※貸し出しはいたしませんので、ご了承ください。)

開館日/時間: 月～金

9:00～17:30

休館日: 土・日・祝祭日、年末年始 (12月29日～1月4日)

〔お問合せ先〕図書館部門

TEL 03-5466-1827 E-mail: tosho@japic.or.jp

くすりの散歩道

NO.76

「カフェインの薬理学」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当
伊東 弘晃 (Ito Hiroaki)



私たちの生活で最も身近な薬物の一つとしてはカフェインが挙げられるでしょう。コーヒーやお茶などカフェインが入った飲み物を飲むと目が覚めるので、朝や仕事前はカフェインのお世話になっている方も多いと思います。出勤するときに最寄り駅の開店前の喫茶店を通ると、出勤前と思われる方々が並んでいるところをよく見かけます。

私はというと大のカフェイン好きで、学生時代から今に至るまで、コーヒー、緑茶、ウーロン茶、そして最近流行りのエナジードリンクなどカフェインが入っている飲み物を愛用しています。最近の生活を振り返ってみると、朝起きたらまず気付けに濃いコーヒーを一杯、職場についたらまずコーヒーを一杯、昼食後は午後の仕事に集中するためにまた一杯……とコーヒーを頂いています。

手持ちの書籍には、カフェインの中枢神経刺激作用は中枢神経に対し抑制的に働くアデノシン受容体の遮断により神経伝達を亢進させることで発現するとあります。つまり、カフェインが直接中枢神経を刺激しているのではなく、中枢神経の抑制作用を抑制することにより間接的に中枢神経を興奮させているのです。そのため覚せい剤など中枢神経に直接作用する薬剤と比較して作用は穏やかであるとされています。このことが、カフェインが中枢神経刺激作用を有していても法規制の対象とはなっていない理由の一つかもしれません。

また、他のカフェインの薬理作用として、ホスホジエステラーゼの阻害を通じた細胞内cAMPの上昇により引き起こされる交感神経の興奮作用があります。この交感神経の興奮作用により脳血管は収縮するため、脳血流の減少による頭痛緩和を期待してよく頭痛薬に配合されています。また、逆に平滑筋は交感神経の興奮作用により弛緩します。カフェインと似た化学構造と薬理作用を持つテオフィリンは、この平滑筋の弛緩作用による気管支の拡張を期待して

喘息に対し処方されています。私は小さい頃喘息持ちであったため、テオフィリンにはよくお世話になっていました。

このように様々な薬理作用があるカフェインですが、近年新しい利用法が提案されています。金沢大学付属病院の土屋教授らは、抗がん剤にカフェインを併用する「カフェイン併用化学療法」を用いて骨肉腫を治療する研究をされています。抗がん剤はがん細胞のDNAを損傷させダメージを与えますが、カフェインはこの損傷したがん細胞のDNAの修復を阻害することにより抗がん剤の作用を強めるとのことです。

平成19年度から開始された「高悪性度骨軟部腫瘍に対するカフェイン併用化学療法の臨床使用確認試験」の報告書では、カフェイン併用化学療法は骨肉腫・軟部肉腫に対し過去の化学療法に比べて良好な成績で、さらにカフェインによる副作用はGrade2以下のもののみであったという、画期的な結果が記されています。また当報告書には、カフェイン自体にもcAMPの上昇による癌のアポトーシス促進作用があるという、カフェインによる新たな抑がん機序が示唆される興味深い基礎実験結果も記されています。

古くて新しい薬であるカフェイン。今後もまた何か面白い利用法が発見されないか期待しつつ、今日も何杯目かのコーヒーを頂くこととします。

参考文献

厚生労働科学研究成果データベース

「高悪性度骨軟部腫瘍に対するカフェイン併用化学療法の臨床使用確認試験」

<http://mhlw-grants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=200918016A>

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2014年2月3日～2月28日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.439-442)の記事から抜粋

■米FDA

- testosterone製品に関するDrug Safety Communication—米FDA、心血管イベントリスクについて調査
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm384225.htm>>
- saxagliptin (OnglyzaまたはKombiglyze XR)に関するDrug Safety Communication: 米FDA、心不全リスクについて調査
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm385471.htm>>

■Health Canada

- 血圧用薬に関する新たな警告: aliskiren, angiotensin-converting enzyme inhibitors, angiotensin receptor blockers の2つ以上の併用に関連したリスク (低血圧、高カリウム血症など) について通知
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2014/37895a-eng.php>>
- lithium: 高カルシウム血症および副甲状腺機能亢進症のリスク
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2014/37903a-eng.php>>
- HIV治療に使用される抗ウイルス剤に関する新たな安全性情報: Telzir (fosamprenavir calcium) と他の抗ウイルス剤は併用すべきではないことなど
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2014/38061a-eng.php>>

■独BfArM

- 混合ホルモン性避妊薬に関するRote-Hand-Briefなどの情報: 静脈血栓塞栓症リスクについて
<<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/DE/RHB/2014/rhb-khk.html>>
- Triamcinolone acetonide (関節内および筋肉注射): 閉経後出血について; 製品情報の改訂など
<<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/DE/TA/PRAC-Signal/SB-triamcinolonacetat.html>>
- paracetamol含有医薬品: 重篤な皮膚反応 (スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死融解症、急性汎発性発疹性膿疱症) について; 製品情報の改訂など
<<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/DE/TA/PRAC-Signal/SB-paracetamol.html>>
- mefloquine含有医薬品: 永続的な神経精神学的副作用 (うつ病など) について; 製品情報の改訂など
<<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/DE/TA/PRAC-Signal/SB-mefloquin.html>>
- amiodarone: 発癌性について; 製品情報の改訂など
<<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/DE/TA/PRAC-Signal/SB-amiodaron.html>>

■仏ANSM

- 混合ホルモン性避妊薬: 血栓塞栓症リスクに関する各製剤の違い、個人のリスク因子の重要性、および臨床的所見に引き続き留意すること; 医療専門家向けレター
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Contraceptifs-hormonaux-combines-rester-conscient-des-differences-entre-les-specialites-face-au-risque-thromboembolique-de-l-importance-des-facteurs-de-risque-individuels-et-etre-attentif-aux-manifestations-cliniques-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>
- Primperanおよびジェネリック薬 (metoclopramide): 副作用 (遅発性ジスキネジーなど) のリスクを低減するための適応症および用量の変更 (更新) について
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Primperan-et-ses-generiques-metoclopramide-Actualisation-des-indications-et-de-la-posologie-pour-diminuer-le-risque-d-effets-indesirables-Point-d-Information>>

■ニュージーランドMedsafe

- amitriptylineと末梢冷感 (手/足の冷感) またはレイノー現象が医薬品モニタリングスキームに追加される
<<http://www.medsafe.govt.nz/Projects/B2/monitoring-communications.asp#3-February-2014>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成26年2月1日～平成26年2月28日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
AHFS Drug Information 2014	American Society of Health-System Pharmacists	American Society of Health-System Pharmacists	2014年
PDR for Nonprescription Drugs 2014 (35 ed.)	PDR Network	PDR Network	2014年
European Pharmacopoeia 8th edition Supplement 8.2	Council of Europe	Council of Europe	2014年1月
MIMS New Ethicals JAN-JUN 2014 Issue20	Valerie Hoa, et al.	UBM Medica	2014年
DATA BOOK 2014	日本製薬工業協会 編	日本製薬工業協会	2014年2月
Pocket Drugs 2014	福井 次矢, 渡邊 裕司 編	医学書院	2014年1月
急性腎障害のためのKDIGO診療ガイドライン	国際腎臓病予後改善機構 編、日本腎臓学会KDIGOガイドライン全訳	東京医学社	2014年1月
今日の治療薬 2014: 解説と便覧	浦部 晶夫, 島田 和幸, 川合 真一 編	南江堂	2014年1月
筋萎縮性側索硬化症診療ガイドライン 2013	日本神経学会「筋萎縮性側索硬化症診療ガイドライン」作成委員会 編	南江堂	2013年12月
循環器病の診断と治療に関するガイドライン 2013	小室 一成 編	日本循環器学会	2014年1月
図解 医薬品情報学 改訂3版	折井 孝男 編	南山堂	2014年1月
治療薬ハンドブック 2014: 薬剤選択と処方のポイント	堀 正二, 菅野 健太郎, 門脇 孝 編	じほう	2014年1月
治療薬マニュアル 2014	北原 光夫, 上野 文昭, 越前 宏俊 編	医学書院	2014年1月
日本の医薬品 構造式集 2014	日本医薬情報センター 編	日本医薬情報センター	2014年3月
日本薬局方外生薬規格 2012	局外生規2012出版検討会 編	薬事日報社	2013年12月
ポケット版 臨床医薬品集 2014	星 恵子 編集責任	薬事日報社	2014年1月
連帯の医学	大高 道也	京都大学学術出版会	2013年12月

情報提供一覧

【平成26年3月1日～3月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report—海外医薬情報]	3月7日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2014年2月分 (HP定期更新情報掲載)	3月3日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [JAPIC NEWS] No.360 4月号	3月28日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [医療用医薬品集普及新版2014]	3月7日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		5. 臨床試験情報	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.922-925 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
4. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.3113-3132	毎 日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
5. [JAPIC Weekly News] No.442-445	毎週木曜日	〈iyakuSearchPlus〉 http://database.japic.or.jp/nw/index	
6. [Regulations View Web版] No.282-283	3月14日・28日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.532-536	毎週月曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
9. [JAPIC医療用医薬品集2014] 更新情報2014年3月版	3月28日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉 https://e-infostream.com/	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 http://jdream3.com/	
		〈株式会社日本経済新聞デジタルメディア日本テレコンから提供〉 http://t21.nikkei.co.jp/	

医療用医薬品集

普及新版2014

2014年
3月発行



本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約3,400頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。

約2,100成分、約20,000製品の医療用医薬品情報を2014年1月時点の最新情報で収録。

■掲載内容

- ◎一般名、製品名
- ◎承認日(一部製品)
- ◎組成(規格)
- ◎効能・効果、用法・用量
- ◎警告
- ◎禁忌、原則禁忌
- ◎慎重投与
- ◎重要な基本的注意
- ◎相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎副作用
- ◎高齢者への投与
- ◎妊婦・産婦・授乳婦等への投与
- ◎小児への投与
- ◎臨床検査結果に及ぼす影響
- ◎半減期

価格：**4,800**円(+税)

A5判／約1,700頁

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 ☎ 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

むらさきけまん

春先に野原によく育つケシ科の野草で仏具の一種の「華鬘」に似ているのでこの名を貰った。局方生薬のエンゴサク(延胡索)と同じCorydalis属で、イソキノリンアルカロイドを含み、切ると黄色い汁が出るが日本では生薬に使わない。本場の中国では紫花魚灯草と呼ばれ、おできなどに外用する。(ky)



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。